

第 8 回社会保障審議会統計分科会疾病、傷害及び死因分類専門委員会 報告

「精神と行動の障害のアドバイザー・グループ」報告

東京医科大学精神医学講座

飯 森 眞喜雄

精神部門の分野別専門委員会 (Topical Advisory Group: TAG) は、「ICD-10 精神および行動の障害のための国際アドバイザー・グループ (International Advisory Group for the Revision of ICD-10 Mental and Behavioral Disorders) : AG」と命名され、2007 年～2009 年まで第 1 期の 4 回の会議が開催された (これらに関しては前回の本委員会で報告済み)。

その後、WHO にて新たに第 2 期の AG の人選が行われ、日本より東京医科大学精神医学講座の丸田敏雅が再度選任された。2009 年 9 月 28 日、29 日、第 2 期の第 1 回会議が WHO 本部で開催され、より具体的な提言を行うために今後どのようにして AG が運営されていくべきか、ICD 改訂の全般に関わる「Content Model」を精神分野としてどのように採用していくか、などが討議された。さらに、第 1 期 AG では AG の下部組織として 5 つのコーディネート・グループが組織されていたが、これらとは別に、特に専門的な知識が要求されたり改訂のたびに議論となっている分野において 4 つの作業グループ (「小児および思春期」「知的および学習障害」「物質依存関連障害」「パーソナリティ障害」) が設けられた。ICD 改訂の全般に関わる「Content Model」に関しては「うつ病」と「アルコール依存症」を例に挙げ、AG の各メンバーが実際に評価を行った。「Content Model」をそのまま精神分野に採用するか否かに関する結論は出なかったが、少なくとも治療に関わる部分は慎重になるべきであるという動向であり、AG 座長および WHO で現在も協議中である。

上記 4 つ作業グループのうち「小児および思春期」に関して AG 委員に有識者を推薦するよう WHO から指示があったため、日本児童青年精神医学会より 2 名の候補者を選任して頂き推薦した。

また WHO は、厚生労働科学研究 ころの健康科学研究事業「国内外の精神科医療における疾病分類に関する研究」に強い関心を寄せており、WHO の要請によってその一部を AG 委員である丸田が報告し、日本の ICD 改訂に向けた取り組みが高く評価された。

以上